



イベント開催

高校生にむけた「FIRSTサイエンスフォーラム3」第3回を、 科学技術イベント「科学・技術フェスタ」と京都で同時開催

世界トップレベルの科学者が最先端の科学技術を紹介し、理科好きの高校生らと交流するフォーラム「FIRSTサイエンスフォーラム3～未来のトップ科学者は君だ!～」の第3回目を3月17日、京都パルスプラザ 稲盛ホール(京都府京都市伏見区)で開催します。

総合科学技術会議が推進するFIRSTプログラム(最先端研究開発支援プログラム)は、世界のトップを目指す30の研究課題を支援するものです。このフォーラムでは、FIRSTプログラムに選ばれたトップ科学者が、世界をリードする研究の最前線の姿やその魅力を紹介し

ます。今年度のラストは「ブレイクスルー:自分の壁を乗り越えるために!」をテーマに、大阪大学の審良静男氏がだれもが持つ「免疫」研究の意義と可能性を、東京大学の荒川泰彦氏が集積回路を「光技術」で劇的に小さくする技術を、大

阪大学の川合知二氏が「DNAの1分子解析」技術を研究への思いと共に話します。フォーラム前半では、トップ科学者がそれぞれの研究内容・成果等をVTRも交えてわかりやすく紹介します。後半では、研究をはじめたきっかけや考え方を紹介しつつ、高校生と質問や意見を交わします。終了後は、「アフタートーク」として、科学者と若者らが会場内で自由に語り合う時間を用意しています。



また、3月16、17日に同会場では青少年を対象とした科学技術イベント「科学・技術フェスタ」を同時に開催します。JSTでは実験教室・ミニワークショップを行うほか、大学、研究機関による展示や高校生の発表など、小中学生から大人までが楽しめる盛りだくさんの企画を予定しています。FIRSTプログラムの12プロジェクトからも研究内容・成果等の展示があり、最先端の研究開発に直接触れることができます。

●「FIRSTサイエンスフォーラム3」

<http://first-pg.jp/>

●「科学・技術フェスタ」

<http://science-festa.jp/>

●関連イベント(3月31日まで)

特別展「TOP OF THE TOP!ー世界の頂点をめざす研究者30名」

<http://www.edu.city.kyoto.jp/science/>

若者と科学者の熱い質疑が交わされます(写真は第2回の様子)



開催報告

全国52自治体が 特色のある理科教育の取り組みを報告

「第4回各地域における理科教育支援の基盤づくりに向けた検討会」が、1月30、31日の両日、日本科学未来館(東京・お台場)で開催され、各自治体から「理科教育の充実」をテーマとしたポスター発表が行われました。この検討会は、各地域で理科教育の推進にあたる教育委員会の専門家にむけて、平成21年度から実施しています。

52の自治体の指導主事95名が交代でポスター発表し、また他県の発表を熱心に聞いていました。いずれも教育委員会の小中高教育課や教育センターが開発し、推進している貴重な取り組みだけに、参加者は集中し食い入るよう見つめ、発表者と活発な意見交換をしていました。主催者のJSTも「理科ねっとわーく」「科学の甲子園」「調査・研究報告」についてポスター発表し、事業内容を積極的に紹介しました。

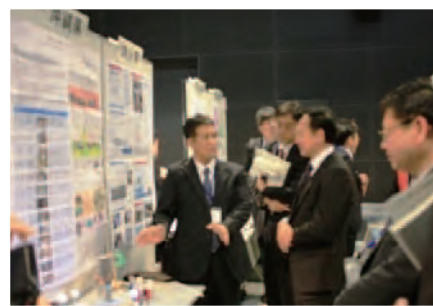
千葉市からは、若手教員や理科指導の苦手な教員のための指導テキストの作成と活用を

推進する事例が紹介されました。教員の指導力向上は、どの地域でも大きな悩みとなっているようでした。大阪府や沖縄県などからは、独自に開発した教材や教具を使って児童・生徒が楽しく理科の学習ができる工夫の紹介があり、参加者はその実演を興味深く見つめたり、実際に操作して実感していました。

文部科学省教科調査官と日本科学未来館の毛利衛館長からも質問やコメントがあり、説明にも一段と熱が入っていました。「他県の取り組みが詳しく分かったので、自分の県を客観的に把握するために役立てたい」「情報交換・交流のための良い機会となった」「時間があれば、もっと多くの発表を聞きたかった」「大変良い企画なので、来年も是非実施してほしい」など、参加者の評判は上々でした。

●関連サイト(理数支援ネット)

<http://risushien.jst.go.jp/investigation/index.html>



ポスター発表の様子を熱心に聞き入る毛利館長と参加者

展示物の一例

千葉市(小中教員用指導の手引き)



沖縄県(「天体」の指導教具)



イベント開催

「波瀾万丈！ おかね道—あなたをうつし出す10の実験」 日本科学未来館の新・企画展



日本科学未来館（東京・お台場）は、企画展「波瀾万丈！ おかね道—あなたをうつし出す10の実験」を3月9日から開催します。

お金の使い方に現れる意思決定と行動特性を、実験で明らかにしながら、人間が持つ性質や行動がいかにお金と社会の動きに影響を与えているかを説明します。

会場はある街の形をとり、来場者は街に点在す

る10の実験室に入り、お金に対する一人ひとりの行動特性をあぶり出す実験に参加します。実験は脳科学、心理学、経済学などの分野で用いられている手法を応用したもので、ゲーム感覚で楽しめる内容となっています。これらの実験により、お金と向き合い、行動する術や心構え、いわば“おかね道”を身に着けることがこの企画展のねらいです。

総合監修は、日本の行動経済学の第一人者で

ある大阪大学 社会経済研究所教授 付属行動経済学研究センター長の大竹文雄氏です。会期中には研究者や著名人によるトークイベントや、最新の研究手法の開発に来場者が参加するイベントなども予定しています。

詳しくはHP (<http://www.miraikan.jst.go.jp/>) をご覧ください。



イベント開催

高等学校の代表チームが科学の英知を競う 「第2回科学の甲子園全国大会」を開催

JST主催の第2回「科学の甲子園全国大会」が3月23～25日、兵庫県立総合体育館（兵庫県西宮市）で開催されます。

科学の甲子園は、高等学校等（中等教育学校後期課程、高等専門学校）の生徒チームが理科、数学、情報における複数分野の競技に取り組みます。競技をチーム戦とすることで、科学好きの裾野を広げるだけでなく、研究の現場で求められるチームワークやコミュニケーションの大切さ、楽しさを体感し、高校生たちに科学への理解を深めてもらうことを目指しています。

競技は23、24日の2日開かれ、筆記競技と実技競技の総合成績により順位を競います。筆記試



験では知識とそれを活用する力が問われ、実技競技では実験、実習、考察を通して、科学技術を総合的に活用して課題を解決する力が問われます。

第1回は、特別枠を含めた48チーム、363名の高校生が参加し、埼玉県立浦和高等学校が優勝しました。今回はどのチームが栄冠を手にするのか、結果が目玉されます。

●科学の甲子園ホームページ

<http://rikai.jst.go.jp/koushien/>

第1回開催（2012年3月24～26日）の様式。



新サービス開始

『ReaD&Researchmap』（リードアンドリサーチマップ）が 府省共通研究開発管理システム『e-Rad』と連携開始

JSTがサービスの提供・運用をする『ReaD&Researchmap』と、文部科学省が運営する府省共通研究開発管理システム『e-Rad』が1月15日から連携を開始しました。

『ReaD&Researchmap』は日本最大級の研究者総覧で、約22万人の研究者情報が登録されています。『e-Rad』は、研究者が研究活動をするための一連の作業（応募から成果報告まで）を管理するオンラインシステムで、約55万人の研究者が登録されています。

この2つのサービスが連携することにより、『e-Rad』を使って研究費の申請を行う際に必要な個人情報や業務情報を『ReaD&Researchmap』に登録済みの研究者情報から簡単に取得でき、『ReaD&Researchmap』は『e-Rad』上で登録・更新された研究者情報を取り込むことができるよ

うになりました。

『ReaD&Researchmap』は今後も機能の拡充、他システムとの連携を行い、日本の研究者をより強力に支援するシステムを目指します。

●『ReaD&Researchmap』

<http://researchmap.jp/>

●『e-Rad』 <http://www.e-rad.go.jp/>

■『ReaD&Researchmap』と『e-Rad』との連携イメージ

